

# 街歩きヒストリア



広島常葉橋・大正 公文書館提供

## ① 常葉橋

ときは

藩政時代には、軍事上の理由から架橋制限のあった広島城下町。この一帯にも橋がなく、小銭をとった渡し舟が向う岸に行く手段でした。

初めて橋ができたのは、明治13(1880)年。木造の橋で「常葉橋」と名付けられました。「常盤橋」という表記は大正頃から使われ始めました。

橋はその後、少し下流に移り、昭和初期にはコンクリート製に。原爆被災の折にも落橋せず、昭和50(1975)年の架け替えを経て現在に至っています。(文・片山典子さん)

今月号から始まる新コラム「街歩きヒストリア」。中央公民館エリア(白島、基町、幟町)の街の歴史を紹介します。公募で集まった制作スタッフが編集します。



手前が現在の常葉橋(後方の山は二葉山) 河野宏志さん撮影